

《所沢税務署長賞》

未来への投資

藤沢中学校 三年 後口 航

増税反対派が過半数を占め、総理大臣ですら「増税メガネ」と揶揄される日本。だが、私は増税は良いことだと思う。それはなぜか。

「世界の幸福度ランキング」というものを知っているか。「最高の人生」なら十、「最悪の人生」なら0とし、0と10の中で人生を表し、国の平均を算出したものだ。それによると、日本は五十一位で平均スコアが六・〇六となっている。では、税金の高い「フィンランド」はどうだろうか。なんと、幸福度は七・七四で一位である。同じように税金の高い北欧の国は、上位に多くみられる。なぜだろうか。

きっとそれは、社会保障の充実が鍵だ。先程のフィンランドでは、学費が大学まで無償となっている。実際、学習到達度では世界一位だ。他にもスウェーデンでは子育てに役立つ手当での支給や、二〇歳まで医療費が無償。ノルウェーでは医療費が年間自己負担額を超えたものは無料と、高齢者へのサポートも充実している。北欧の国々の幸福度が高いのは子供から高齢者まで幅広い充実したサポートによるものだろう。これは税金が生み出した幸せとも言える。

また、サポートの充実は少子高齢化の抑止にもつながっている。スウェーデンでは一九九七年頃に出生率が一・五だったが、二〇一〇年には出生率が二・〇と回復したのだ。この背景には、男性の意識改革や働き方改革、そして何より社会保障の改革があると考えられる。社会保障の充実は、少子高齢化の抑止にも繋がっている。そのためにも、税はとても大切なのだ。

もちろん、ただ高くするだけではだめだ。昔の日本で飢饉などが起こり、財政難になったとき、その場しのぎの政策を立ててきた。その結果、初めはよかったものの少しずつ崩れてゆき、政府が壊れた、というのも珍しくはない。だからこそ、先を見据えた政策を立ててほしいと思う。現職の国会議員が裏金をつくるなどしていいないで、もっと真面目に仕事をしてほしい。以上のことから、私は増税は良いことだと思う。だからといって、納税しなくなるとは元も子もない。だから、税についてもっと周知させる必要がある。手厚いサポートも必要だろう。また、私達国民も増税の良い面を捉えなくてはならない。税金は次の世代の子供達や、自分達の年金にもなる。言い換えるなら「未来への投資」だ。税金によって、日本という国が少しでも明るくなることを、私は願っている。